



福の神は、なんだか恐ろしくて家の中に入れません。そこへ、貧乏神が、のっしのっしと出て来ました。福の神は、大あわてで逃げて行ってしまいました。

福の神が行ってしまった後を見ると、小づちが落ちていました。貧乏神は、

「ああ、こりゃ、打ち出の小づちだ。福の神のやつ、いい物を忘れて行ったくれた」といって、よろこんで小づちをひろいあげました。そして、小づちをふって、

「米出ろ！」というと、米が山ほど出ました。

「みそ出ろ！」というと、みそがどっさり出ました。

「金出ろ！」というと、お金がいっぱい出ました。

夫婦は大喜びです。貧乏神は、打ち出の小づちを持って、すっかり福の神になりました。おかげでその家は、ますます栄えたということです。

どんべすかんこ ねっけど

村上郁再話

資料『五分次郎』野村純一、野村敬子／桜楓社